


平成26年度宮城県芸術選奨受賞者一覧表






【芸術選奨】

受賞者	受賞理由(概要)	主な作品
佐藤 一郎(68歳) 美術(洋画) 	昭和21年生まれ 東京藝術大学油画科で絵画技法研究の第一人者として、広く芸術の振興に寄与してきた。 マックス・デルナーの「絵画技術体系」を翻訳し、絵を学ぶ人々のバイブルとして活用されている。また、優れた人材を本県美術系大学に派遣し、本県の人材育成、美術界の発展を支えてきた。 世界的具象作家であり、一貫して自身の周辺や郷土地域に根ざした制作を続けており、その優れた作品は国内及び国際的にも評価されている。 国内外の文化財の保護、伝承にも尽力されており、精力的に活動をしている。 本県芸術文化振興の要として、ますますの御活躍が期待される。	 「船形山」 (宮城県知事公館蔵)
星 眞子(63歳) 美術(彫刻) 	昭和27年生まれ 学生時代より鑄造の人体像を制作し、河北美術展、宮城県芸術祭等の公募展において、最高賞をはじめ数多くの賞を受けており、招待や審査員も多く努めてきた。 平成3年頃よりイタリアのカッラーラ大学で学び、現地に在住。石を素材に抽象的な形を精力的に追求し、意欲的な展開を続けた。 平成25年より制作の拠点を石巻に移し、平成26年には宮城県立子ども病院で個展とワークショップを開き、高い評価を得た。 イタリアで培った貴重な経験や技術を基に、新たな作品の制作や若手作家の育成、海外との美術交流など、更なる飛躍が期待される。	 「Paesaggio di cuore in ITALIA- I -」
小林 澄子(70歳) 美術(工芸) 	昭和20年生まれ 染織家・志村ふくみ氏に師事。「伝統工芸」「草木染め」「染織」へのこだわりを通して、自身の制作思想に基づき、47年間にわたり染織を続けてきた。 その作品は、日本伝統工芸展で5回の入選のほか、様々な公募展で入選・入賞をするなど高い評価を得ている。 独自に追求した縞模様の紬織物は、個展開催のほか、全国誌で特集記事が組まれるなど、多くの人にその魅力を伝え、染織の第1人者として大きく貢献している。 伝統技術の継承や次世代に繋げる若手作家の育成など、今後、更なる活躍が期待がされる。	 紬織物「かそくく」 H26.12婦人画報より
佐藤 英太郎(76歳) 美術(写真) 	昭和14年生まれ 日本リアリズム写真集団に入会し、写真家・土門 拳らと交流する。 こけし工人として、蔵王町の工房で製作にいそむかたわら、同会が主催する公募展『視点』を中心に数多くの作品を発表。作品は一貫して「故郷」をテーマにした社会的ドキュメンタリーで、その芸術性が高く評価され、最高賞の「視点賞」をはじめ、平成17年より10年連続して入選・入賞を重ねている。 また、写真集「時世時節」(ときよじせつ)は力作で、写真家、写真評論家から高い評価を受け、多くの人々を魅了した。 地元をテーマにした更なるドキュメンタリー作品の発表など今後の活躍が期待される。	 「ふるさと変貌」
梶原 さい子(44歳) 文芸(短歌) 	昭和46年生まれ 精力的に短歌を発表し、第3回叙情文学最優秀賞短歌賞、三内丸山まほろば文芸最優秀作品賞、第25回現代短歌評論賞次席、第1回塔短歌会賞、第29回現代短歌評論賞と数々の受賞歴に輝く。 平成26年度は、第3歌集「リアス/椿」を発行。気仙沼市唐桑の出身である氏が、震災後地元と往還しつつ制作した、多くの秀歌をまとめたもので、海の心をも詠んだ歌集として、全国的にも高く評価された。 また、高等学校国語教師として、在任中全校あげた短歌創作活動の中心的存在となるなど、後進の育成へも大きな影響を与えた。 今後の宮城県歌界を牽引していく存在として更なる活躍が期待される。	「リアス/椿」 ・祈ること 移りゆきつつ2年を 海に向かって 手を合わせたり ・跡形も無き町筋の まぼろしの間口を思い 描かむとして

年齢は平成27年8月18日授賞式当日の年齢です。

受賞者	受賞理由(概要)	主な作品
仙台市民交響楽団 音楽 	昭和44年創立 仙台市内の中学生・高校生を中心に、「仙台ユースシンフォニーオーケストラ」として発足し、平成2年に「仙台市民交響楽団」に改称した。 定期公演を毎年継続して行うなど活発に活動の続け、ここ数年はプロの音楽家でもほとんど演奏を聞いたことのない曲目にチャレンジし、演奏を果たしている。平成26年はニールセン「交響曲第4番『不滅』」において、冒頭から最終楽章まで迫力満点の見事な演奏を繰り広げ、賞賛を浴びた。また、近年は実績のある指揮者を毎回変えながら演奏する体制を取り、着実にレベルを向上させている。 今後も、市民オーケストラの牽引役として、更なるレベルの向上と、県内音楽愛好家を満足させるプログラムなど、活躍が期待される。	 H26第70回定期演奏会
井伏 銀太郎(57歳) 演劇 	昭和33年生まれ 「White ～あの日、白い雪が舞った～」をはじめとする劇作の巧みさは秀逸である。自作のみならず地元の劇作家の作品を演出し、水準の高い活動を続けており、東京や横浜でも作品を上演し、宮城発のウェルメイド演劇として高く評価されている。 また、自身も俳優として質の高い確かな演技を見せているほかに、俳優研修所も組織し、演劇人の育成に大きく寄与している。 宮城発の演劇を他地域に発信し、将来の演劇界を担う人材育成を行うなど今後の活動が大いに期待される。	 「white～あの日、白い雪が舞った～」作、演出、出演
山内ジョージ(75歳) メディア芸術 	昭和15年生まれ 同郷、同窓の石ノ森章太郎の大きな影響を受けてマンガの道に入ったが、マンガ描写とマンガ的感性の延長線上に「絵文字」という独自の表現スタイルを生み出した。 その作品は教育的な要素を持っており、美術教育と言語教育に資する創造的な視覚教材を生み出し、マンガと教育を結びつけた功績は大きい。平成26年に行った、パリ日本文化館での個展は、欧米の関心が深まっている日本の「MANGA」について、表現の広がり伝える意義があった。 ユーモアとウィットに富んだ作品は、ユニバーサルな視覚表現として多様な展開が期待され、既存媒体や形式にとらわれないマンガ表現の可能性を広げ、更なる活躍が期待される。	

【芸術選奨新人賞】

受賞者	受賞理由(概要)	主な作品
横山 信人(35歳) 美術(彫刻) 	昭和54年生まれ ベニヤ板を使った、多面体の具象立体作品は大変ユニークでオリジナリティがある。現在、個展を中心に制作活動を行っているが、グループ展、交流展等にも多数参加しており、近年は毎年のように東京で個展を行い、その活動の場を広げている。 平成26年に開催した、リアス・アーク美術館での展覧会と、新現美術協会展での作品は、作品のテーマや素材による表現等、圧巻で目を見張らせるものがあつた。立体造形作家が少ない中、力強く、オリジナリティ溢れる作品の発表で、地域に刺激を与えるものとして、今後の更なる活躍が期待される。	 「記憶」
丸山 あずさ(42歳) 文芸(川柳) 	昭和48年生まれ 川柳歴は10年に満たないが瞬間に実力を伸ばし、清新かつ批評性に溢れる作品を発表している。 各大会での成績も良好で、平成26年には、東北川柳界の権威である「第3回東北川柳大賞」を受賞し、同作品を含む句集「見つめる」が「東奥日報」・「川柳マガジン」誌に紹介されるなど、大きな反響を呼んだ。 病のため中途失明し盲導犬との生活を送っており、心の目で感じ取った鋭敏な感覚や、現代社会への洞察力を振り所に、制作活動を積極的に続けている。 近年の作品は震災詠を含め、命を見つめるまなざしに溢れており、その新鮮な表現やナイーブな叙情性は、新しい川柳表現を切り拓くものとして、今後の活躍が期待される。	 

年齢は平成27年8月18日授賞式当日の年齢です。